

たんぽぽ

NO. 29

H1.10.31
—発行—
〒869-12
熊本県菊池郡
大津町森54-2
社会福祉法人
三気の会
三気の望
TEL096
293-8100

受賞

理事長 田中 稔

本年度の第十九回毎日社会福祉顕彰（毎日新聞社主催）を長崎県の「なづな園」の近藤原理先生が受けられました。先生は自宅を家庭的共同生活の家「なづな園」と名付けて二十七年間、障害を持つ大人達と暮らしておられます。

私自身施設を作ってみて先生の様、に公的補助を全く受けず、零から出発して二十七年間生活を共にされているという事実のすごさにただ圧倒されます。先生の書物を読みますと、そこには生き生きと生活している人としての園生の姿が笑いを誘います。

人間らしく生きるという事を「皆と出来る事をして働く」という事に置いておられる様に見えます。

「共に汗をして助け合いながら生きる」という単純な永遠の事実に裏打ちされた確固たる信念がある様に思います。

「〇〇療法」もなければ「〇〇学説」も無く、変わったとか成長したとか成果を問う事ありません。ただ淡々と正直で率直な園生の姿が書かれています。

自閉症については十、十五年で考え方や接し方が百八十度変わっています。現在言われている認知障害、言語障害も将来又変わっていくでしょう。

先生はある講演会で「自閉症について考える」より「自閉症という障害名を持って生きている人について考える」事の方が楽しいと笑っておられました。

人が言ったり、した事の中で時

の流れに耐える事は少ないし、三十年近い時の流れの中で仕事を残して来られた事への今回の受賞は素晴らしいものだと思います。その先生が「障害者は家庭で育ち、生活するのが一番です」と言っておられます。全く同感です。家庭や社会とのつながりを大切にし、皆と助け合いながら汗を流せる場として三気の里を作りました。

三気の里の（のん気）（こん気）（げん気）は先生の書かれたものの中から頂きました。私達も三十、五十年の時の流れに耐える仕事が残せるかどうか、今始まったところでは。



療育シリーズ

木工作業

園長 土井尚典

昨年度の末から作業第三班は木工作業をとり入れた。カナズチ、クギヌキ、ノコギリ、カンナ等、園生たちにとってほとんどがはじめて手にするものであった。又、職員にとっても同じであった。間抜材の皮むきなどで木に親しんできたものの、木工作業は全く異種のものであった。

釘を打つことは打ち込んでいく釘の感じが手に伝わってくる。曲がりそうになる釘の感じもある。曲がった釘を抜くことは一見やさしそうに見えてむずかしい。釘が抜ける感じをつかまないと抜けない。こういった事を手の感じ、目の感じ、音の感じでつかまないと釘を打つ、釘を抜くことは上達しない。同じことはノコギリやカンナの使い方にも言える。

指導する側の職員は道具の使い

方や木の性質をよく知っておかないと指導できない。しかし、職員もズブの素人であった。木工作業をしている他施設を見学したり、木工作業の実習をしても教えるなんてとんでもないと言われる程の実力であった。更にもっと困難な事があった。三班の園生のタイプは言葉をつかって教えたり、手をとって教える場面がづくりにくいことであった。どうやって木工作業に導入し、教えることができるか一番悩んだことであった。道具を工夫したり、機械を導入するにも基礎知識がない。そんな状態でも道具を工夫したり、機械を導入すると、より安全で作業能率はあがると思われるが、木工作業をする人としての「測る、切る、削る、打つ」等の確かな技術が身につくだろうか。障害者用に工夫しすぎて発達の芽を摘みとってしまうのではないか。結果として、障害者を差別するのではないかという心配があった。三班の職員が達した

結論は「職員自身の技術が未熟な事もある故に、木工作業をする人の基本的技術は木工道具の中に入っているカナズチ、ノコギリ、クギヌキ、カンナ等をつかえるようになることが木工技術の発達に一番良いだろう。又安全性からもケガはしても大きいケガはしないだろう」という事であった。

最初は家の解体材の釘抜きからはじまった。古材についている釘は仲々抜けない。釘の頭を叩いて少し打ち込むと抜け易い事も知った。ポンチやペンチをつかうと抜け易い事も知った。園生と職員は悪戦苦闘しながら釘抜き作業の面白さを知り、道具の使い方を覚えていった。ところが、こんな作業なんか全然面白くないという園生がでて来た。できないから面白くないのではなく、できるのにやりたくないのである。職員は園生のもっている個性と障害の本質にぶつかったのであった。

バスハイイク

朝晩の冷え込みや、空の高さにしつかり秋を感じるようになったこの季節、10月19日(木)に恒例となったバスハイイクに出かけました。当日は、担当者の願いも空しく朝から雨。それでも園生の笑顔に「何とか答えるぞ」と気合を入れて、一路目的地のグリーンピア南阿蘇へと出発しました。体育館につき、お弁当を食べるまで「楽しく過ごせるだろうか？」と不安に思っていたものの、いざ遊び始めるとそんな不安は一気に解消してしまいました。何しろ《おやつを食べることすら忘れて》バトミントン、ミニバレーに興じ、走り回る園生の声で体育館が満たされたのですから……。そして、今回のバスハイイク一番の出来事は、レクレーション係の職員が知恵を絞って考えてくれた「玉ころがし」でした。

マイペースの園生、気合の入った園生、他の園生を手伝う園生と、

その姿は多様ながら、園生・職員・ボランティアさんと全員で一つのゲームを楽しむ様子を見ていて「工夫すれば運動会が出来るんじゃないか？」とすら思えて感動していたのは私だけだったでしょうか。平日にもかかわらず、授業を休んでまで参加して下さったボランティアさんや留守を守って下さったお母さん方など多くの方のご協力の下、無事に終えることが出来ました。が、工夫や、やり方次第ではもっと色々なことが出来るという確かなものを感じて帰ってこれたバスハイイクだったのではないかと思います。

最後になりましたが、皆さんのご協力本当にありがとうございました。東

p.s. これでやっとバスハイイクの夢を見ずに眠れるぞ〜!



ぼらんていあ通信

10月19日、あいにくの雨でしたが、たくさんのボランティアさんと一緒にバスハイイクを楽しみました。ここだけの話ですが、学校を休んでまで来て下さった方もあり有り難いやら、申し訳ないやら；それでもボランティアさんの楽しそうな笑顔を見ていたら、一緒に行って良かったなあと思えました。またいっしょに遊びましょう!



ぼらんていあ

ありがとうございます

10/19 バスハイイク 野田紀子

山室明美 永井ひろみ 宮崎直子

山本えりこ 今村由紀 下田恭裕

隈田よしえ 宮崎将光 木村公美

大田黒美佳 松岡のり子

米村香津代 出良公仁子

10/21・22 作品展示会

大塚美恵子

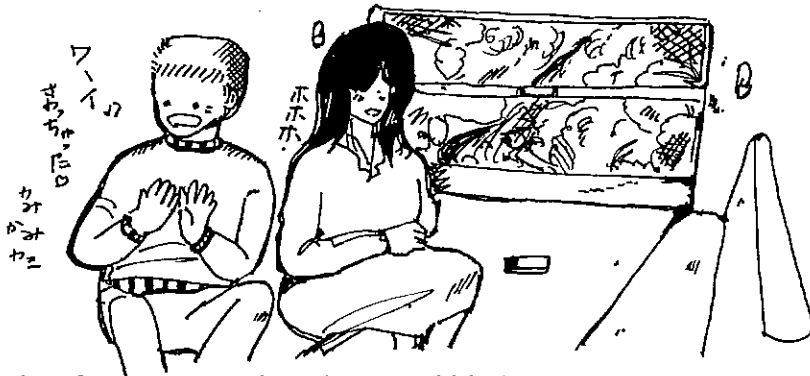
(敬称略)

3 班 汽車旅行

テュルルル…大津駅のプラットフォームで列車に乗り込むのを、今か今かと大興奮の中待つ新ちゃん、「もう少し、静かにしようか」控え目に注意するのだがよっぽど嬉しいのだろう。マー君はどっちから来るのかときょろきょろ。

(いいかげん早よ来んか!)と内心の私。「今回の汽車の旅が成功すれば汽車に乗ってキャンプにも行けるぞ」と園長。確かに!!。しばらくして立野行列車が来て、その後乗り変えて阿蘇白川駅まで。目的地は白川水源です。阿蘇の山々、清流流れる橋を渡り、窓を開ければ少し冷たく感じる風を受けながらの列車の中では、乗り合わせた客の人に「どこからですか?」「リュックの中には何が入ってるのかな?」等質問 e t c。「お風呂掃除」と返答した人も。同席の髪の長いきれいな女の人の髪を思わずさわったうらやましいハプニングもあり楽しい旅で、白川水源でののんびり過ごす時間もいいものでした。

田之上



4 班 えんま様御免なさい。

4 班では、去る10月5日に下益城郡中央町にある3333段の石段登りに挑戦しました。とはいうものの当初より全部登り切ろうなどという大それた考えはなく、700段位を目標においていざ登段。予定では1時間かかるはずの700段をなんと15分足らずで登ってしまい、「あまりにも早すぎたので、1000段付近まで登りましょう。」と職員の声。ところが登り始めると、お弁当を食べれそうな東屋が1000段付近にはなく、次の休憩所を求めてひたすら登る先頭に対し、くたくたの最後尾。やっとの思いで1200段まで登ったと思ったら、「休憩所、トイレ500段↑」の道標。気を取り直して登り切った1700段に思わず、「騙されたー」と言ったのは何を隠そうある職員でした。きつかったけど、東屋でのお弁当や下段後のジュースのおいしさは格別でした。職員の「又、行こうね」の声に皆はうわの空の帰りの車中でした。今回、特別参加のM中学校のマサミちゃんとお母さん、それに担当の先生、どうもお疲れ様でした。

(ちなみに3333段登り切ったのは、園生4人に職員2人でした。) 木下



さて、今月の1班のレクの行き先は、大分県竹田市にある岡城です。岡城はあの中学校唱歌でおなじみの『荒城の月』という歌のモデルとなったお城なのですが、今は城はなく城跡だけが残されています。ちょっぴり紅葉には早かったのですが、吹く風はどこか冷たげでした。しかし、1班のメンバーは情緒感に浸っている場合ではない…と言わんばかりに元気一杯。元気印のマコちゃん、崖つぶちでもヒョイヒョイと泰ちゃん、みっちゃん、のりちゃんは田辺さんにベツタリ。たけちゃんはというと人知れず滝 廉太郎の像の前でハイ！ポーズ。かつき君は難しい立て看板を読んだり。肇ちゃん、潔君、りえちゃんは担当のお姉さん達と秋を楽しみました。忠ちゃんと事務長は、岡城に一番乗りしただけに少々疲れ気味でした。みんなお疲れ様でした。最後に食べたはらふと餅、来年も食べに行こうね。

伊石

2班 にわとり売ります

“にわとりはいりませんか？”2班では、卵から孵化した雛が大きくなりおんどりが7わ、めんどりが3わになりました。今度、新しい鶏小屋を作る事になり多すぎるおんどりを減らして、引っ越しをしたいと思います。にわたりの種類はコーチンで食用に適しています。もうすでに4班は試食済みで、『おいしかった』という事です。どうですか？広いにわとり小屋で元気に飛び回って大きくなったにわとりを味わってみませんか？

『いっちょ食べてみるかー！』と思われる方は、2班の職員までおたずね下さい。

高橋

PS 新しいにわとり小屋は、放し飼いにしたいと思います。フェンスを張りますので、お手伝いをして下さる方を募集しています。新しいにわとり小屋では、おいしい卵がたくさん産まれると思いますので、その時はまたよろしくお願いします。

自転車小屋作り

福田春幸

子供の教育は母親まかせ、憲幸が誕生した時からずうっとそうです。学校にも殆ど行った事がありませんし、恥ずかしい事ですが障害児の教育の事等解るはずもありません。先日の自転車小屋作りに参加するにも一か月前、十日前、三日前と何回も催促されやっと参加しました。何の考えもなく、ささやかな労力奉仕をただけなので感想を書く様に依頼があった時は正直いって困ってしまいました。当日は十数名の父親と先生方で自転車小屋の土台作りをしました。が、何人か要領を得た方がおられ、作業はスムーズに進みました。又めったに会う機会のない父親同士のふれあいの場にもなったと思います。

施設と家庭は自転車の両輪となつて子供達の生活を支えていく必要があると思います。しかし、子供を見ていますと、どんなに努力し

ても自転車の輪の様に後が前輪に追いつく事はありえませんが、それでもほんのわずかでも前進する事を期待してペダルを踏み続けなければなりません。

今度、園に行つた時にはあの土台の上どんな自転車小屋が完成しているか楽しみです。



施設見学

みつば学園

橋本加代子

七月十五日、十六日と、芦北にある「みつば学園」に職員六名で行ってきました。学園の前は、中学校の跡地でグラウンドや体育館、

プールがありとても恵まれた環境の中に建っていました。

園長はじめ先生方、園生の人がお出迎えして下さったので、私達は皆緊張していたのですが、席を設けて話をして下さる中でみつば学園より三気の里に来たはじめ君の話になると、皆緊張がとれ話はずみしました。

この日は土曜日で、残念ながらみんなの作業風景は見る事が出来なかったのですが、宿泊させていだいたので普段の様子は見る事が出来ました。夜になるとみんなフロアーに集まって来て花札や将棋をしたり、朝はごはん前に各班に分かれて洗濯や掃除をしたりと充実した毎日を送っている様でした。

ps 『夏になると園生で人工海

水浴場へ空き缶を拾いにいくんですよ』という話を聞いた私達は早速翌日見学という事を念頭に海へ向かったのです。

実習日を終えて

今村 由紀

七月二十六日から八月五日までの十日間、三気の里で実習をさせて頂きました。五回の実習（施設、保育園、幼稚園）を終えた今、振り返ってみて一番思い出すのが三気の里での十日間です。夏の日差しを浴びながら一緒に作業をした事、四班のみんなとプールへ行った事、夏祭り等、次から次へと浮かんで来ます。園生の皆は、おもしろくてかわいくて一緒にいて楽しかったです。私は、園生のみんなと仲良くなる事を目標にしていましたが、もう少し時間があれば、もっと仲良くなれたかもしれないと思うと残念です。

又、園生のみんなの表情が明るく、のびのびとしていた事も印象に残っています。帰宅という目標があり、みんながその目標に向かって毎日生活しているからだろうと思えました。この実習期間中に改めて家族の力は大きく、この集団

がとても大切であると感じました。

鍵が無い等、居室がある事、おいしい食事、入浴が毎日ある事等良いところだなと思う事が多かったです。三気の里で実習をしなかったなら、施設には鍵があってもしようがないと思うままだったと思います。この十日間で沢山の事を学びました。園生の接し方等で悩んだりしましたが、今思うと勉強になったと思っています。この十日間で学んだ事を忘れずに、これから学んだ事を生かしていきたいと思えます。



ただいま

食堂営業中

「お手伝い」

今、厨房には、たくさんのお園生達がお手伝いに来てくれます。

朝7時頃からは、由美ちゃんが早くから頑張ってくれています。最近では、食堂の掃除まで手伝ってくれる様になりました。掃除が終わると「また夜、来るね。」と言って、夜のお手伝いをしてくれます。

昼と夜は台拭き当番が台拭きをしてくれるので助かっています。それから辰治さんの腕も良くなり毎日、台拭きを手伝ってくれています。辰治さんの台拭きは汚れている所も拭き取ってくれるのでテーブルがピッカピカになります。また、椅子の上げ下ろしも辰治さんやふたみさんがお手伝いしてくれます。「○○ちゃん、椅子おろすの手伝って。」と声をかければ手伝ってくれる園生もいます。私達は、みんなの「お手伝い」で助かっています。

由美ちゃん、辰治さん、ふたみさん、その他の園生の皆さん毎日御苦労様。これからも頑張ろうね。

長友

1 1月の行事予定

1(水)体重測定	11(土)	21(火)
2(木)動作法	12(日)ボラティア週間	22(水)
3(金)帰宅訓練日 シーツ交換	13(月)	23(木)2班レク 動作法
4(土)ケース検討会	14(火)健康診断(内科)	24(金)大掃除
5(日)	15(水)防災訓練	25(土)
6(月)	16(木)3班レク 動作法	26(日)
7(火)尿・ぎょう虫検査	17(金)	27(月)
8(水)	18(土)シーツ交換	28(火)
9(木)誕生会 1班レク 動作法	19(日)	29(水)
10(金)	20(月)	30(木) 4班レク 動作法

※ 12日ボランティア週間 販売 バザー 於:サンロード新市街

後援協会云だより

ありがとうございます!

平成元年度後援会会員紹介

隅本 亨

青木敏範

山本昌央

興呂木秋男

池永文浩

十月二十七日付け

※敬称略

先日、二の丸公園において精薄施設の作品展示会が催されました。みんなが作った作品と一緒に冊子「一九八七年度版たんぼぼ」を展示しました。それを買って読んで下さった方が寄付をもって翌日また励ましに来て下さいました。寄付金は後援会の入金金としてお預かりし、毎月、機関誌「たんぼぼ」をお送りすることになりました。このような機会に三気の里を知っていただき、後援会を通じて多くの方に「たんぼぼ」を読んでいただきと思えます。

やろろう会

十一月日程

2日(木)甲斐・高木・岩永

9日(木)竹下・中村み・田中

16日(木)福田・松枝・林

30日(木)金森・井口・橋村・神沢

いつもお手伝い

ごくろうさまです!

編集後記

近年に珍しく、阿蘇山が元気に活動している影響を受け、ここにも火山灰が降って来ます。ここ数日は、外で車を駐車していると五分もすればフロントガラスはうっすらと灰化粧をするほどです。初めは珍しくて驚くだけでしたが最近(もう、うんざり)と言う感じは、私も阿蘇山を見習ってよなよな活動しようかしら、と、思ったものの、阿蘇山のように周囲の人に多大な迷惑をかけてしまうので止めました。(よな放言で火山灰) どうも失礼しました。 浮